# シラバス作成のための
# ガイドライン

2026年度版

九州技術教育専門学校

# 1. はじめに

このガイドラインは、本校で開講される全ての授業についての基本方針及びシラバスに記載する必要がある項目、記載方法を示すものです。シラバス作成時の参考として下さい。

## (1)シラバスの定義と必要性

中央教育審議会では以下のように定義されています。

> ■シラバス
> 各授業科目の詳細な授業計画。一般に，大学の授業名，担当教員名，講義目的，各 回ごとの授業内容，成績評価方法・基準，準備学習等についての具体的な指示，教科 書・参考文献，履修条件等が記されており，学生が各授業科目の準備学習等を進める ための基本となるもの。また，学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに， 教員相互の授業内容の調整，学生による授業評価等にも使われる。

（出展：中央教育審議会 平成 20 年 12 月 24 日第 67 回総会(答申) 用語解説）

これは、学士課程教育向けの内容ではありますが、専門学校においてもシラバスの捉え方は同じと考えられます。

個々の講義科目の内容や講義計画を示すシラバスは、学生の主体的な学びを促すための重要なツールとなります。

## (2)シラバスの役割

シラバスには下記に示す役割が含まれています。

担当者はその重要性を認識し、作成に際しては十分な内容の検討と、学生へ交付することを踏まえ、分かりやすい内容となるように心がけ、作成してください。

【役 割】

- 学生が講義の履修を決める際の資料
- 学生が授業の準備学習を進めるための基準
- 学生及び教員間での講義の到達目標の確認と共有
- 学生や教員間での相互評価の基準
- 学生や教員間での相互評価にもとづく授業の内容、方法の改善
- 教員と学生との契約
- 授業料負担軽減の認定校としての条件

## 2. 基本方針

シラバスの作成にあたっては、学内での共通化を行うことにより、情報の共有やチェック、改善が実施できるよう、下記のルールを守って作成してください。

- シラバスの内容は学生を主体とした、学生に分かりやすい内容とすること。
- シラバスに記載した内容は、原則それに則り実施すること。
- シラバスの作成にあたり、本校所定のフォーマットを利用すること。
- シラバス作成後は学校長の認可を得ること。

## 3. シラバスの項目

策定するシラバスの項目は以下の通りであり、基本的に全項目を記載してください。

ただし、科目の特性に応じ記載事項に変更が生じる場合は、基本方針に則り変更可能とします。

| 項目名 | | 記載概要 |
|---|---|---|
| 科目基本情報 | ①科目名 | 正式な科目名称(教育課程表参照)を記載する |
| | ③科目区分 | 「専門」または「教養」科目の別を記載する |
| | ④学科・コース | 受講対象学科・コース名を記載する |
| | ⑤学年 | 受講対象学年を記載する |
| | ⑥学期 | 授業の実施期を記載する |
| | ⑦方式 | 授業の実施方式(講義・演習・実習)を記載する |
| | ⑧必・選 | 「必修」または「選択」の別を記載する |
| | ⑨単位 | 修得単位数を記載する |
| | ⑩総時数 | 授業の総実施時間数を記載する |
| | ⑪実務経験のある教員科目 | 実務経験のある教員が担当する科目か記す |
| 授業詳細情報 | ⑫授業概要 | 授業の概要を記載する |
| | ⑬達成目標 | 授業における達成目標を記載する |
| | ⑭使用教材 | 授業上で使用する教材を記載する |
| | ⑮授業外学習 | 授業外で取り組むべき学習等を記載する |
| | ⑯授業計画 | |
| | (ア)授業計画(回) | 授業回数を記載する |
| | (イ)授業計画(項目) | 授業項目名を記載する |
| | (ウ)授業計画(内容) | 項目の内容概略を記載する |
| | ⑰評価方法 | 評価方法を記載する |
| | ⑱関連科目 | 本科目が関連する科目を記載する |
| | ⑲備考 | その他、学生に伝えておきたい内容を記載する。 |

## 4. 各項目の記載内容、記載方法等の詳細

### (1) 科目基本情報

#### ① 科目名

教育課程に則り、正式な科目名称を記載する。

#### ② 科目区分

学科においての専門教科であるか、教養科目となるかを記載する。

記載の用語: 専門 ｜ 教養

#### ③ 学科・コース

受講対象の学科、コースを記載する。

記載の用語:

情報システム工学科

情報システム工学科 システムデザインコース

情報システム工学科 メディアデザインコース

情報システム工学科 IT デザインコース

#### ④ 学年

受講対象の学年を記載する。

記載の用語: 1年 ｜ 2年 ｜ 1・2年

#### ⑤ 学期

授業を実施する学期を記載する。

記載の用語: 前期 ｜ 後期 ｜ 通年

#### ⑥ 方式

授業の方式を記載する。また複数の方式を採用する場合は併記する。

記載の用語: 講義 ｜ 演習 ｜ 実技 ｜ アクティブラーニング ｜ PBL 等

#### ⑦ 必・選

必修、選択の別を記載する。

記述の用語: 必修 ｜ 選択

### ⑧ 単位

教科単位数を算用数字で記載する。

### ⑨ 総時数

総授業時数を次の式により求め算用数字で記載する。

式:
週コマ数×30(半期の教科については15を乗じる)
例:週3コマの科目の場合: 3×30＝90 ･･･ 90と記載

### ⑩ 実務経験のある教員科目

実務経験のある教員が担当する科目対象または対象外を記す。かつ対象科目の場合、実務経験の概要を記す

例: ☑対象･□対象外

概要例:
ソフトウェア開発企業にて SE として官公庁等の基幹システム開発に間携わり、システム設計、プログラミングなどの実務に就いた。

## (2)授業詳細情報

### ⑪ 授業概要

どのような授業が行われるのか、授業全体の実施概要が学生に伝わるよう簡潔にまとめ記載する。また初学者がいることを踏まえ、専門用語はできるだけ控え、わかりやすい用語を用いて記載することが望ましい。

例:
～～について説明する。～～について実技を交え演習する。

### ⑫ 達成目標

授業を受け全行程が終了した時点での成果について、どのような知識、能力を習得できるのかを、学生から見て「こんな事ができる」や「こんな資格が取得できる」といった具体的にイメージできるような内容を記載する。

例:
～～についての作成方法を知り、＊＊を制作できるようになることを目的とする。
～～について理解することで、＊＊試験合格できるレベルに達することを目的とする。

## ⑬ 使用教材

授業で利用する教科書、副教材、参考書を全て記載する。

## ⑭ 授業外学習

実授業だけでは内容の習得が難しいと考えられる場合、予習、復習など授業外の学習において、学生がより授業内容を効率よく吸収し、定着する方法などがあれば記載する。

例:
習熟度を深めるため、教科書の授業対象箇所を授業前までに一読しておくこと。

## ⑮ 授業計画

授業内でどのような内容が、どのくらいの時間をかけ実施されるのか、詳細な実施計画を立て記載する。

(ア)授業計画(項目)

授業の内容を表す目安となる項目名を簡潔に記載する。
また、項目番号を付記する場合、「連番」や「章・項」、「第1回、第2回」等、教科に合わせた書式を適宜採用する。

(イ) 授業計画(内容)

各項目での実施内容を具体的に記載する。

(ウ)授業計画(時数)

各項目について、想定される実施時間数を算用数字で記載する。

## ⑯ 評価方法

(ア)評価項目

評価項目には以下のようなものがある。

A) 定期試験

i. 例外を除き前期、後期ともに期末定期試験を実施し評価する。
※例外1:年間を通した制作物等の成果物提出によって評価する場合
※例外2:指定検定試験の合格をもって、定期試験を合格とする場合

ii. 50点未満を不合格とする。

B) 平常点

レポート、制作物の提出(提出期限の厳守)、授業態度等を総合的に勘案し評価する。

C） 出席点

出席状況(率)を元に、得点に換算する。

また、全授業数の3分の2以上の出席をもって単位認定となり、3分の2に満たない場合を不合格とする。

※詳細は「成績評価基準規定」を参照。

(イ) 割合

標準割合を定期試験60%、平常点20%、出席点20%として算出する。

ただし、平常点に重きを置く実習系の授業など、割合の変更を可能とするが、それを明記し学生に伝えること。

(ウ) 評価基準

評価基準は下記のとおりとし、評価によって GP(Grade Point)を設定する。

また、GP は GPA(Grade Point Average)をもって学生の相対的な評価をする場合に利用する

| 評語 | 評価基準 | 参考基準点 | GP |
|---|---|---|---|
| 優 | 達成目標に到達し、優秀と判定できる | 80 点以上 | 4 |
| 良 | 達成目標に到達している | 60～79 点 | 3 |
| 可 | 達成目標に最低限到達している | 50～59 点 | 2 |
| 不可 | 達成目標に到達していない | 50 点未満 | 1 |

※詳細は「九州技術教育専門学校　成績評価基準規定」を参照

## ⑰ 関連科目

実施される教科が関連する他の授業を明記する。

特に、関連科目のベースを学ぶ教科の場合はその旨を記載する。

例:

関連科目1、関連科目2、関連科目3

この科目は、科目「～～」を学習する上で必須となる基礎知識を学ぶ

## ⑱ 備考

授業を受ける学生に向け、心構えや付け加えておく通達事項などを記載する。

■科目基本情報

| 科目名 | 情報基礎理論 | | | | | 科目区分 | 専門 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 情報システム工学科 | | | 学年 | 1年 | 学期 | 通年 |
| 方式 | 講義 | 必・選 | 必修 | 単位 | 2 | 総時数 | 30 |
| 実務経験のある教員科目 | □対象・☑対象外 | | | | | | |

■授業詳細情報

| 授業概要 | 情報システムの技術要素に関する知識を習得する。主に、情報基礎理論、プログラミング（言語、アルゴリズム）、コンピュータアーキテクチャ（CPU、メモリ、補助記憶装置）、ソフトウェア、OS の動作等を学習する |
|---|---|
| 達成目標 | 日常利用しているコンピュータがどのような構造をしており、どのように動作しているか、おおよそ IT エンジニアとして身につけておくべき基礎技術を理解する。 |
| 使用教材 | 教科書：FOM 出版　よくわかるマスター基本情報技術者試験対策テキスト<br>参考書：<br>副教材： |
| 授業外学習 | 本科目は概ね 90 時間の学修を必要とする内容で構成されている。授業は時間内の演習を含め 30 時間分（30 回）が実施される。この他に予習、復習、課題等、概ね 60 時間の時間外学習が必要になる。 |

**授業計画**

| 回 | 項目 | 概要 |
|---|---|---|
| 1 | 基礎理論（基数変換） | 整数表現の概要、10 進数、2 進数、16 進数の相互変換方法 |
| 2 | 基礎理論（浮動小数点・誤差） | 小数表現の概要、誤差の種類と起こる原因 |
| 3 | 基礎理論（シフト演算・論理演算） | コンピュータによる各種演算方法の概要 |
| : | | |
| : | | |
| 28 | ソフトウェア（OSS） | OSS の概要、種類、ライセンス |
| 29 | 科目 A 免除試験問題演習① | 関連項目問題演習 |
| 30 | 科目 A 免除試験問題演習② | 関連項目問題演習 |

| 評価方法 | ①期末試験（又は各検定試験への合格による評価）：60%、②出席率：20%、③課題提出：20%<br>①～③の合計得点を評価（優、良、可、不可）に置き換える<br>※IT パスポート試験または基本情報技術者試験へ合格した場合、定期試験合格としこれを免除する |
|---|---|
| 関連科目 | 情報マネジメントと経営戦略、アルゴリズムとプログラミング |
| 備考 | 本授業において身につけた知識は、IT パスポート試験、基本情報技術者試験を始め、情報活用試験（J 検）、情報システム試験など多くの試験に対応している。よって積極的に検定試験を受験し、合格を目指してほしい。 |